

# 東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2014 秋号

## ◇◇ 記事一覧 ◇◇

会長あいさつ	1
役員会・総会報告	2
2013/14年度学会賞	3
受賞者のことば	4
投稿をお待ちしています	4



## 会長あいさつ

弘前大学農学生命科学部 渋谷長生

この度2期目の学会長に選任されました。本学会が宮城、福島、岩手の各大会で東日本大震災の関わるミニシンポジウム、並びに大会シンポジウムを開催してきたわけですが、それらの内容については「農村経済研究」各号に示されておりますし、また岩手大会については今後発刊されるわけですが、学会員のみならず多数の方から忌憚のない意見を頂ければと考えているところです。

さて東北農業経済学会は今年で50周年を迎えることになりました。学会としては50周年記念事業として「東北農業・農村研究の論点を得る—未来に向けて—」を11月に開催したところです。記念事業を開催するに当たり、設立総会はどのような様子なのか知りたいと思い、本学会の第1回大会を特集していました東北経済開発センター刊「東北開発研究」5巻2号(1966年1月号)を改めて開いてみました。

そのはしがきには次のように学会設立の様子が記載されていました。

「当学会はこの日(7月10日)午前中400余名に登会員を持って創立せられ、それを記念する東北農政局長久我通武氏の公開講演を持ったが、午後の研究会にも200名を超す研究者が熱心に参加しきわめて盛会であった。」

学会設立が東北地方の農業研究者のみ並び行政や

農協関係者から大いなる期待を持って受け止められたことがわかります。

午後行われた研究会では「東北農業における流通問題」を共通論題として以下の4名の方が報告しておられました。

「津軽のりんごの流通問題」弘前大学 田辺良則先生  
「東北地方における酪農業の流通事情」農学総合研究所 岸英次先生

「肉豚産地流通機構としての主体入札制度の意義と問題点」東北農業試験場 堀籠謙先生

「最近における肉豚・鶏卵の流通問題」農林中金 甲斐民翁先生

司会は東北大学 吉田實一先生、福島大学 星埜惇先生でした。

それぞれ先生のお名前を見るたびに各先生の身振り、手振り、お話になる口調が頭に浮かび、そして耳に聞こえてくる気がいたします。

本学会は「東北農業をいかに発展させるか」という実践的課題を共有してきました。そのため大学、国・県の研究者だけでなく農業者、東北農政局、各県農政担当者、普及職員、農協団体職員、ジャーナリストなど多様な方々が参加しました。

11月の50周年記念事業に参加された会員の中で、学会設立総会に参加していた会員が2名おられました。山形県の五十鈴川寛会員、そして岩手県の渡辺基会員です。五十鈴川会員からは懇親会の席上、学会設立のために尽力された木下彰先生や馬場昭先生の奮闘ぶりが紹介されました。

50周年記念事業では「東北農業をいかにして発展させるか」を念頭に置いて元会長の佐藤了先生に講演をお願いしました。また午後からは本学会の若手を中心に大胆に問題提起をしてもらうために4つのセッションでの報告と討論を行いました。

今後とも先輩と若手が融合しかつ切磋琢磨して東北農業を発展させる道筋を更に豊富にして頂くために会長として尽力したいと考えています。

# 役員会・総会報告

岩手大会の開催に併せて平成26年8月21日に役員会が開催され、翌8月22日に総会が開催されました。主な内容は次の通りです。

## 1. 2013/14年度の活動について

### (1) 会員数の動向

2014年7月31日現在 個人会員 223名  
(うち一般会員 201名、学生会員 22名)  
団体会員 3団体

### (2) 2012/13年度 事業報告

#### 2013年

9月 農村経済研究 第31巻第2号(第48回宮城大会特集号)発行

11月 岩手大会プレシンポジウム「震災復興の道標をどこに求めるか—岩手県三陸沿岸部の地域経済・農業・水産業・生活の現状と課題」開催(岩手大学、16日)

#### 2014年

3月 農村経済研究 第32巻第1号(福島大会特集号)発行  
JSTAGEで「東北農業経済研究」Vol.28(2010) No.2 公開  
ニューズレター2013年秋号発行(発行遅れ)

2013/14年度 第1回常務理事会開催(仙台市)  
5月 ニュースレター2014年春号発行  
2013/14年度 学会賞候補者募集  
2014/15年度 研究助成募集  
臨時常務理事会開催(仙台市、50周年記念事業について協議)

8月 2013/14年度 第2回常務理事会開催(仙台市)  
第50回 岩手大会開催(盛岡市、22-23日)

### (3) 投稿規程の改正について

一般の投稿論文と大会個別報告をもとに投稿された論文の一本化に伴い、投稿規定の一部改正および審査基準を一本化することが承認されました。

## 2. 2013/14年度学会賞の選考について

次ページの記事をご覧ください。

## 3. 2014/15年度研究助成対象者の選考結果について

以下のとおり承認されました。

助成対象者：福島県農業総合センター 半杭真一

テーマ：東日本大震災が福島県農産物流通段階に与えた影響

助成金額：10万円

## 4. 名誉会員について

以下のお二方を名誉会員として推挙することが承認されました。

弘前大学 名誉教授 神田健策

秋田県立大学 名誉教授 佐藤 了

## 5. 企画委員会の解散について

企画委員会は2012~14年の宮城・福島・岩手大会シンポジウムを東日本大震災に関連したテーマで開催するため、2011年の秋田大会の時に提案され設立されました。2014年の岩手大会において中間総括がなされたことから、同委員会を解散することが承認されました。

## 6. 2014/15年度事業計画について

以下の内容で承認されました。

- ・ 農村経済研究 第32巻第2号(論文特集号)9月発行見込み
- ・ 50周年記念事業(2014年11月15日(土)・仙台市)
- ・ 新潟大会プレ・シンポジウム(新潟県選出役員と相談の上、必要に応じて開催)
- ・ 第51回新潟大会開催
- ・ 会誌発行(第33巻第1号岩手大会特集号、第33巻第2号論文特集号、第33巻第3号50周年記念事業特集号)
- ・ ニュースレター発行(2014年10月下旬=50周年記念事業の通知兼ねる、2015年5月)
- ・ 常務理事会開催(2015年3月、2015年8月)
- ・ 研究助成の募集
- ・ 学会賞選考

## 7. 2014/15年度大会(2015年夏)開催地について

- ・ 新潟県での開催が承認されました。

## 8. 役員改選について

総会において以下のとおり新役員が承認されました。任期は2014年9月1日から2016年8月31日までです。

◆会長：渋谷長生(弘前大学)

◆副会長：小沢 互(山形大学)、高橋太一(東北農業研究センター)、津田渉(秋田県立大学)

◆理事：石塚哉史(弘前大学)、佐藤和憲(岩手大学)、新田義修(岩手県立大学)、大和田祥代(宮城県農林水産部)、紺屋直樹(宮城大学)、高篠仁奈(東北大学)、中村勝則(秋田県立大学)、石澤孝司(山形県立農業大学校)、角田 毅(山形大学)、仁井智己(福島県農業総

合センター)、小山良太(福島大学)、伊藤亮司(新潟大学)、清野誠喜(新潟大学)、塩谷幸治(中央農研北陸研究センター)、磯島昭代(東北農業研究センター)、小野雅之(神戸大学大学院)、玉 真之介(徳島大学)、宮入隆(北海学園大学)、吉井邦恒(農林水産政策研究所)、長谷川啓哉(会長指名、東北農業研究センター)、渡部岳陽(会長指名、秋田県立大学)、吉仲 怜(会長指名、弘前大学)

◆評議員：成田勝治(青森県産業技術センター農林水産総合研究所)、成田高(青森県農協中央会)、油川潤一(青森県農林水産部)、村上和史(岩手県農業研究センター)、大川 隆(岩手県農協中央会)、千葉和彦(岩手県農林水産部)、竹中智夫(宮城県農協中央会)、小島俊夫(宮城県農林水産部)、櫻谷満一(東北農政局)、鈴木 剛(秋田県農協中央会)、齋藤 了(秋田県農林水産部)、今田裕幸(山形県農協中央会)、阿部 清(山形県農林水産部)、樋渡和宏(山形県農林水産部)、川上雅則(福島県農協中央会)、井上久雄(福島県農業総合センター)、菅野和彦(福島県農林水産部)、小林 巧(新潟県新潟地域振興局)、高橋一成(新潟県農協中央会)、大鎌邦雄、柘植徳雄(東北大学大学院)

◆顧問：佐々木康雄(農林水産省東北農政局)

## 2013/14 年度学会賞

### 1. 選考結果と受賞理由

2013/14 年度東北農業経済学会賞(木下賞)は、奨励賞に石塚哉史会員(弘前大学)、学会誌賞に井坂友美会員(農林水産政策研究所)および澁谷美紀会員(北海道農業研究センター)が決定しました。残念ながら学術賞および実践賞は該当者なしでした。

受賞理由は以下のとおりです。なお、岩手大会総会において表彰式が行われました。

#### (1) 奨励賞

◆受賞者：石塚哉史(弘前大学)

◆受賞対象：「東北産農産物・食品の輸出に関する一連の研究」

◆受賞理由：東北地方における農業生産物・加工食品の輸出に関する調査、分析を行い、従来ある地域別とは異なる視点として組織主体からのアプローチによって、実態調査をベースとしながら政策や地方公共団体の取り組みが果たした役割、関係機関の取り組みと戦略、輸出先市場における競争関係、輸出拡大の条件を考察したこと。品目としてもながいも、こんにやく、りんどう、ジュースなど多く、それぞれの産地・メーカ

ーにおける現状問題・課題についてもよく整理、分析されている。農産物流通調査研究においては、社会的な背景により正確な情報の収集と分析に対する困難が伴う中での成果であり、研究発表により、優れた研究知見を数多く提示し、東北農業と農業経済学の発展に貢献したことが認められる。候補者の研究については、展開途上であり、今後さらなる研究の蓄積と成果の公表が待たれる部分もあるが、将来の発展が期待される会員の研究業績として、奨励賞受賞に相応しいものである。

#### (2) 学会誌賞

◆受賞者：井坂友美(東北大学大学院)

◆受賞論文：「農村の経済外的人間関係を媒介とする農地の意味に関する考察—南沼原地区と三郷堰地区におけるインタビュー調査から—」(第31巻第1号)

◆受賞理由：本論文は農地を人との強い関係を持つ環境として捉え、農地と家・村の意識を持つ人の関係について、2地区10名の農業者のインタビュー調査をもとに、詳細に分析したものである。農地は村の人々が占有する人間化された空間であるため、社会的規範を不可避的に負って人間関係の媒介となるものであり、単純に生産要素として捉えることの出来ない重要なものであること、そのため構造改革は自然と人間の関係を基軸とした環境の変化となるものであるため、構造政策を施すにはこの認識を持たなければならないことを明らかにした優れた論文と評価した。

◆受賞者：澁谷美紀(北海道農業研究センター)

◆受賞論文：「夏秋イチゴの直接取引における問題対応と取引の継続」(第31巻第1号)

◆受賞理由：本論文はイチゴの四季成り性品種の直接取引を行う生産者組織「東北雷峰会」と、年間売上10億円を超える菓子メーカーとの取引実態を関係性マーケティングの視点から分析し、問題対応に焦点をあて取引の継続要因を分析したものである。分析の結果、直接取引では取引の前提として生産者とメーカーの双方に認知的信頼が保持され安定的供給・調達体制が形成されていること、取引開始後は両者のコミュニケーションの積み重ねや安定的供給・調達というパフォーマンスの反復によって感情的信頼が醸成されることが継続要因となることを明らかにした優れた論文と評価した。

## 受賞者のことば

この度は、東北農業経済学会木下賞(奨励賞)を賜り、

厚く御礼申し上げます。私は、弘前大学への赴任以降、東北農業に関連する調査・研究活動を開始し、5年が経ちました。

この間、農産物・加工食品における輸出マーケティング戦略の現状と課題というテーマを中心に取り組んで参りました。わが国の農林水産物・食品輸出は1兆円規模を目指すという目標を打ち上げ、10年近く経ちましたが、実態は未だ緒に就いた段階であり、課題が山積しているのが実情です。こうした中で、東北農業に不勉強であった私が地域内の産地や品目を事例として、農産物輸出に関わる研究成果を幾つか取り纏められたのも、現場で培った有益な情報を地方自治体、生産者、農協等の方々から懇切丁寧なご教示をいただけた賜と感じております。この場をお借りしてご協力頂いた皆様に改めて御礼申し上げます。

最後になりますが、今回の受賞を励みに引き続き東北農業への課題解決に向けて貢献できる研究を取り纏められるよう、精進して参りたいと考えております。皆様におかれましては、なお一層のご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

弘前大学 石塚哉史

このたびは東北農業経済学会賞学会誌賞を賜りましたことを関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。受賞対象となった論文では、生産者と菓子メーカーによる夏秋イチゴの直接取引に着目し、取引の継続要因を検討しました。国産の夏秋イチゴに対する強い実需者ニーズを背景に東北地域でも直接取引が広くみられますが、取引の継続には、サプライチェーンのプロセスにおいて生産量や品質の不安定性から生じる諸問題への対応が重要になります。取引継続には生産者とメーカー双方が相手への信頼関係を形成し、これらの問題への対応を図っていくことが重要と考え、論文にまとめました。まだまだ多くの課題が残されており力不足を感じておりますが、これを励みに一層の研究の深化に努めてまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

北海道農業研究センター 澁谷美紀

この度は、東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）を受賞することができ、大変うれしく、また光栄に思っております。論文執筆にあたってお世話になった農家の方々や先生方、また査読でコメントをいただきました先生方、学会賞にご推薦いただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

賞を賜りました拙論は、東北大学農学部4年生のときに調査・執筆した卒業論文の一部をもとに、同大学院修士1年生のときに投稿したものです。初めての学

会誌投稿ということもあって、論文の体裁は不十分と言わざるを得ませんが、農業・農村に対する自分自身の問題関心を素直に、そして悩みながら表現したものであります。研究者としてのスタート地点とも言えるような、この論文が受賞したと知り、少しばかり面映ゆく、しかしうれしく思います。

今後も初心を忘れずに、精進してまいる所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。賞品としていただいた南部鉄器も、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

農林水産政策研究所 井坂友美

## 投稿をお待ちしています

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は和文で最大 22,000 字（印刷頁数で 12 頁）が目安です。詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』  
編集担当理事 角田 毅 あて

山形大学農学部食料生命環境学科  
食農環境マネジメント学コース  
〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23  
TEL・FAX:0235-28-2885  
E-mail:sumita@tr.yamagata-u.ac.jp



### 編集後記

◆新しい役員体制になりました。2016年までの2年間よろしく願い申し上げます。◆設立50周年記念事業も無事に終了しました。これを節目として、ニュースレターの内容につきましても、会員の皆様からの情報発信のコーナーを設けるなど、紙面の充実が必要ではないかと考えております。◆次号2014年春号は5月ごろの発行予定です。(N)